

資料1

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点
に関する作業部会
(第10期-第6回) R2.6.24

国立大学の共同利用・共同研究拠点の評価調書の見直しについて（案）

「国立大学の共同利用・共同研究拠点等の認定・評価に関する検討の基本的な方向性について（令和2年4月23日）」（以下「基本的な方向性」という。）や、中間評価における課題を踏まえた改善事項である「国立大学の共同利用・共同研究拠点の評価の改善について（論点メモ）（平成30年11月17日研究環境基盤部会配布資料）」（以下「論点メモ」という。）等の作業部会における議論を踏まえ、評価調書の改善事項について見直しを図る。

1. 「基本的方向性」を踏まえた改善事項

(1) 評価の観点

<「基本的方向性」における記載>

- ・ 拠点としての活動状況：人材育成機能の強化の取組、多様な研究機関等との連携の取組、イノベーション創出を支える基盤強化としての「共用」を含む研究設備の有効活用などの取組、及び産学連携や社会・地域との連携の取組等について、拠点の本来業務の遂行を前提としつつ評価を行う。
- ・ 拠点における研究活動の成果：異分野融合・新分野創出の成果、及び人文・社会科学の特性を踏まえた研究成果等について、評価を行う。
- ・ この他、拠点における評価調書の作成の際、必要に応じ、同じ研究環境基盤部会の下で検討された「大学共同利用機関検証ガイドライン（令和2年3月）」において適用される「主な観点」や「指標例」を参考とする。また、評価者側が拠点の機能を客観的に測定する指標として、参照できるものがある場合は適宜活用する。

<現状・課題>

- ・ 「人材育成機能の強化」について、評価調書に人材育成に関して記載する項目があることから、大学共同利用機関検証ガイドラインにおける主な観点を参考に、具体例として評価調書の項目に追加するとともに記入要領を見直す。
- ・ 「「共用」を含む研究設備の有効活用などの取組」について、評価調書の「関連分野発展への取組」の追加するとともに記入要領を見直す。
- ・ 「産学連携や社会・地域との連携の取組」、「異分野融合・新分野創出の成果」については、後述の見直しにより対応。

<修正（案）>

(評価調書の項目の修正（案）)

⑥ 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組人材育成機能の強化

⑦ 関連分野発展への取組(大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用 等)

(評価調書の記入要領の修正（案）)

⑥ 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組人材育成機能強化の取組
若手研究者（海外研究者を含む。）の採用や育成、女性研究者を含めた人材の多様化、先端的・国際的な共同研究等への大学院生の参画を通じた人材育成等の取組状況について記入してください。

⑦ 関連分野発展への取組（大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用 等）
日本学術会議が策定するマスタープランの重点大型計画、科学技術・学術審議会のロードマップへの掲載等の取組や、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用等の取組状況について記入してください。

④～⑦については、平成〇年度をとおした取組状況を、簡潔かつ具体的に記入してください。また、⑦については、日本学術会議が策定するマスタープランの重点大型計画、科学技術・学術審議会のロードマップへの掲載等の取組があれば記入してください。

(2) コンプライアンスへの対応状況

<「基本的方向性」における記載>

- ・ その他：研究活動の不正行為、及び研究費の不正使用等のコンプライアンスへの対応に係る観点を加え、評価を行う。

<現状・課題>

- ・ 評価調書において、コンプライアンス上の課題等が発生した場合の対応状況を確認する観点から、倫理教育の実施状況を確認する項目をコンプライアンスへの対応状況等について記載する項目として整理する。

<修正（案）>

(評価調書の項目の修正（案）)

4. 研究不正、不適切な会計処理に係る倫理教育の実施状況
研究活動の不正行為及び研究費の不正使用等のコンプライアンスへの対応状況等

(評価調書の記入要領の修正 (案))

4. 研究不正、不適切な会計処理等に係る倫理教育の実施状況 研究活動の不正行為及び研究費の不正使用等のコンプライアンスへの対応状況等

平成〇年度をとおり、コンプライアンス教育等の実施状況について研究活動の不正行為及び研究費の不正使用等のコンプライアンスへの対応について、倫理教育の実施状況を含む必要な体制の整備状況や、コンプライアンス上の課題が発生した場合は、その対応状況等について記入してください。

(3) 活動実績等の記載を認定対象に部分に限ることを明確化

<「基本的方向性」における記載>

- ・ 研究施設の一部について拠点認定を受けた場合において、評価の対象となるのは、認定を受けた部分に係る活動実績であることを明らかにするよう（一つの研究施設において複数の拠点認定を受けている場合には、当該施設の他の拠点の活動実績と明確に区別して評価できるよう）、評価調書を見直す。

<現状・課題>

- ・ 研究施設の一部に係る拠点認定を受けている場合、活動実績等の記載を認定対象部分に限ることについて明確にする。

<修正 (案) >

(評価調書の記入要領の修正 (案))

- 各項目について、研究施設全体ではなく、一部が拠点認定されている場合には、認定された研究施設関連する事柄（教員数や科学研究費助成事業等の採択状況など）について認定対象部分に限って回答してください。

(参考)

※1 研究施設・複数拠点を認定している研究所

- ・ 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所
〔 ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点
再生医学・再生医療医の先端的共同研究拠点 〕
- ・ 京都大学 東南アジア地域研究研究所
〔 地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点
東南アジア研究の国際共同研究拠点 〕

※研究施設の一部を認定している研究所

- ・ 東京大学 社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター
〔 社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点 〕

(4) 外国人研究者の定義の明確化

<「基本的方向性」における記載>

- ・ 中間評価において、「外国人研究者」や「外部利用」等の解釈が曖昧であった表現については、期末評価要項において定義の明確化を図るとともに、必要に応じて評価調書を見直す。

<現状・課題>

- ・ 評価用調書では「外国人研究者」についての定義がなかったが、国籍ではなく海外からの共同利用・共同研究の参加状況を確認する目的を踏まえ、共同利用・共同研究の参加状況を確認する項目において、「外国人」を「海外研究者」と修正し、記入要領に定義を記載する。また、学外からの参加状況のみの合計欄を追加する。

<修正（案）>

(評価調書の記入欄の修正（案）)

③共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	受入人数	平成〇年度							
			外国人 海外研究者	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	延べ人数	外国人 海外研究者	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	
学内(法人内)										
国立大学										
公立大学										
私立大学										
大学共同利用機関法人										
独立行政法人等公的研究機関										
民間機関										
外国機関										
その他										
学外計										
計	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(評価調書の記入要領の修正（案）)

③ 共同利用・共同研究の参加状況

共同利用・共同研究の受入機関数、受入人数、延べ人数について、区分に応じて記入してください。

※ 外国人海外研究者、若手研究者（35歳以下）、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対する内数を記入してください。なお、海外研究者については、研究の本拠地を海外に置く研究者の人数について記入してください。

(5) 学内利用、学外利用の定義の明確化

<「基本的方向性」における記載>

- ・ 中間評価において、「外国人研究者」や「外部利用」等の解釈が曖昧であった表現については、期末評価要項において定義の明確化を図るとともに、必要に応じて評価調書を見直す。

<現状・課題>

- ・ 「共同利用・共同研究に供する施設、設備、資料及びデータ等の利用状況等」において、学内利用の定義が明確ではなく、拠点外からの利用者に委託されて拠点内の教職員が設備等を利用するケースが学内利用と計上されていたため、記入要領に説明を記載する。

<修正（案）>

(評価調書の記入要領の修正（案）)

- ※ 年間使用人数、共同利用者数については延べ人数で算出してください。 ←
なお、年間使用人数等の計上に当たっては、拠点内の技術職員等による研究設備の操作に係る技術支援にとどまるものについては、「学内（法人）」の区分として計上しないでください。 ←

2. 「論点メモ」を踏まえた改善事項

共同利用・共同研究課題の採択・実施状況の確認

<「論点メモ」における記載>

- ・ 「認定の基準」においては、「課題等を広く全国の関連研究者から募集し、関連研究者その他の申請施設を置く大学の職員以外の者の委員の数が委員の総数の二分の一以上である組織の議を経て採択を行っていること」と規定されている。評価報告書の記入欄において、「公募型」以外に「その他」の欄があると、公募しなくてもよいとの誤解を与えることも考えられる。「共共拠点としてのミッション」が明確になるよう「その他」は削除すべきではないか。

<現状・課題>

- ・ 課題等を広く全国の関連研究者から募集する拠点としてのミッションが明確になるよう、「共同利用・共同研究課題の採択状況・実施状況」の確認においては、「公募型以外実施件数」を確認する欄を削除するとともに、新たに、「公募型」のうち拠点が研究テーマ等を設定する課題の採択・実施状況を確認する。

<修正(案)>

(評価調書の記入欄の修正(案))

3. 共同利用・共同研究の活動状況

①共同利用・共同研究課題の採択状況・実施状況

年度	採択状況				実施状況															
	公募型				新規分				継続分				合計							
	応募件数	採択件数	採択率(%)	うち国際共同研究	公募型実施件数	公募型以外実施件数	うち研究テーマ設定型	合計	うち国際共同研究	公募型実施件数	公募型以外実施件数	うち研究テーマ設定型	合計	うち国際共同研究	公募型実施件数	公募型以外実施件数	うち研究テーマ設定型	合計	うち国際共同研究	
○								0				0		0	0	0	0	0	0	0
○								0				0		0	0	0	0	0	0	0
平均								0.0				0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(評価調書の記入要領の修正(案))

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

① 共同利用・共同研究課題の採択状況・実施状況

応募件数及び採択件数、採択件数のうち国際共同研究数について、実績を記入してください。また、実施状況についても、新規分と継続分について、~~公募型及び公募型以外に分けて、~~実績を記入してください。

なお、「うち研究テーマ設定型」には、公募した共同利用・共同研究課題のうち、拠点が研究テーマ等を設定して公募したものを、「うち国際共同研究」には公募した共同利用・共同研究課題のうち、国際共同研究の実績を記入してください。

3. その他の改善事項

(1) 研究施設の研究力を測る指標に係る記載方法の見直し

<本作業部会におけるこれまでの意見>

- 共同利用・共同研究という機能についての評価である趣旨を踏まえ、研究所の研究力を測るような指標については記載方法を見直す。また、記載する拠点側の負担軽減も考慮する。

<現状・課題>

- 研究施設の状況を確認する項目を見直し、負担軽減の観点から、「人材の流動性 ②転入元・転出先一覧」の項目を削除する。

<修正(案)>

(評価調書の記入欄の修正(案))

1-2. 研究施設の組織等

2. 人材の流動性

②転入元・転出先一覧

職名	平成○年度		職名	平成○年度	
	転入元機関名	転入元職名		転出先機関名	転出先職名
教授			教授		
准教授			准教授		
講師			講師		
助教			助教		
助手			助手		

※上記表の転入者については転入元の、転出者については転出先の機関名及び職名を記入。

削除

(評価調書の記入要領の修正 (案))

1-2. 研究施設の組織等

2. 人材の流動性

~~② 転入元・転出先一覧~~

~~研究教育職員(常勤)について、職名毎に、転入者については「転入元」の、転出者については転出先の機関名(大学・大学共同利用機関・独立行政法人・民間等)及び職名を記入してください。~~

~~※ 行が不足する場合は、例えば以下のように行を増やしてください。~~

~~例)~~

教授	
准教授	



教授	XXXXXXXXXX
	XXXXXXXXXX
准教授	

} 削除

② 共同利用・共同研究機能に関する評価との趣旨を踏まえるとともに、負担軽減の観点から、研究施設としての成果や取組等を記載する「**1-4. 研究施設の取組等**」の項目のうち、

「1. 研究施設等の研究者による研究成果の概要（特許を含む）」、

「2. 研究成果が一般社会に還元（応用）された事例や新しい研究分野の開拓や教育研究活動に反映された事例」、

「4. 自己点検評価及び外部評価実施状況」

については削除する。

「3. 受賞状況」については、共同利用・共同研究の成果として確認するために、「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 1. 共同利用・共同研究による成果」の欄に移す。

同様に、「5. 研究施設等を置く大学（法人）の機能強化・特色化に係る取組の実施状況」については、共同利用・共同研究の活動状況として確認するため、「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 3. 共同利用・共同研究の活動状況」の欄に移す。

従来の「6. その他、研究施設としての特色ある取組」については、研究施設の産学連携の取組についても記載することができる項目だったところ、共同利用・共同研究の活動状況として確認することとし、「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 3. 共同利用・共同研究の活動状況」の欄に移すとともに、「基本的な方向性」において評価を行うものと整理された「拠点としての活動状況」の記載を踏まえ、「多様な連携の取組状況」を確認する項目として整理する。

<修正 (案) >

(評価調書の記入欄の修正 (案))

1-4. 研究施設の取組等

1. 研究施設等の研究者による研究成果の概要(特許を含む)

年度	研究成果の概要	学術的意義又は社会・経済・文化的意義	関係研究者名

2. 研究成果が一般社会に還元(応用)された事例や新しい研究分野の開拓や教育活動に反映された事例

※ 別紙ひな型を使用し、ポン手絵を作成してください。(主なもの3件以内。)

3. 受賞状況

受賞総数	平成〇年度	平均		
			受賞年月	受賞対象となった研究課題名等
受賞者氏名	賞名			

4. 自己点検評価及び外部評価の実施状況

区分	実施年度	評価実施方法	主な指摘内容等	指摘を踏まえた改善のための取組
自己点検評価				
外部評価				

5. 研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に関わる取組の実施状況

6. その他、研究施設としての特色ある取組

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

1. 共同利用・共同研究による成果

- ①共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果(特許を含む)
(略)
- ②共同利用・共同研究活動が発展したプロジェクト等
(略)

②受賞状況

受賞総数	平成〇年度	平成〇年度	平均	
受賞者氏名	賞名	受賞年月	受賞対象となった研究課題名等	

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

- ①共同利用・共同研究課題の採択状況・実施状況
(略)
- ②共同利用・共同研究課題の概要
(略)
- ③共同利用・共同研究の参加状況
2. 同一人物が2つの共同利用・共同研究課題(課題A、課題B)に参加し、課題Aに3日間、課題Bに4日間参加(兼所)した場合: 受入人数2人、延べ人数7人
(略)
- ④独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

⑤国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

⑥共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組人材育成機能の強化

⑦関連分野発展への取組(大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用 等)

⑧多様な連携の取組(多様な研究機関等との連携の取組、産学連携や社会・地域との連携の取組 等)

⑨研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に係る取組

削除

移動

削除

整理

移動

<修正(案)>

(評価調書の記入要領の修正(案))

1-4. 研究施設の取組等

1. 研究施設等の研究者による研究成果の概要(特許を含む)

~~平成〇年度をとおして、当該研究施設等の研究者による国際的にも優れた研究成果や産業・社会活動等に大きな影響を与えた研究成果について5件まで厳選して記入してください。~~

2. 研究成果が一般社会に還元(応用)された事例や新しい研究分野の開拓や教育活動に反映された事例

~~平成〇年度をとおして、当該研究所等の研究成果の中で、研究成果が一般社会に還元(応用)された事例や新しい分野の開拓や教育活動に反映された事例について、別紙様式により、ポンチ絵を作成してください。(主なもの3件以内)~~

3. 受賞状況

当該研究施設等における研究者の受賞状況について受賞総数を記入し、その中で平成〇年度をとおして代表的なものを5件まで厳選して記入してください。

4. 自己点検評価及び外部評価の実施状況

~~当該研究施設等が実施した直近の自己点検評価及び外部評価(国際外部評価を含む)について、評価実施日とその評価内容(実施方法、主な指摘内容等、指摘を踏まえた改善のための取組状況)について簡潔に記入してください。~~

5. 研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に関わる取組の実施状況

平成〇年度をとおして、当該研究施設が、研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に対して関わった取組について、記入してください。

6. その他、研究施設としての特色ある取組

平成〇年度をとおして、研究施設等の特色ある取組(産学連携に関する取組も含む)について、記入してください。

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

1. 共同利用・共同研究による成果

① 共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果(特許を含む)

平成〇年度をとおして、共同利用・共同研究による国際的にも優れた研究成果や産業・社会活動等に大きな影響を与えた研究成果について、5件まで厳選して記入してください。

② 共同利用・共同研究活動が発展したプロジェクト等

平成〇年度をとおして、プロジェクト研究に発展した共同利用・共同研究がある場合、そのプロジェクト研究の名称と財源(国の補助事業等)、期間、概要を記入してください。

③ 受賞状況

共同利用・共同研究による研究者の受賞状況について受賞総数を記入し、その中で平成〇年度をとおして代表的なものを5件まで厳選して記入してください。

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

⑥ 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組(人材育成機能強化の取組)

若手研究者(海外研究者を含む)の採用や育成、女性研究者を含めた人材の多様化、先端的・国際的な共同研究等への大学院生の参画を通じた人材育成等の取組状況について記入してください。

⑦ 関連分野発展への取組(大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用等)

日本学術会議が策定するマスタープランの重点大型計画、科学技術・学術審議会のロードマップへの掲載等の取組や、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用等の取組状況について記入してください。

⑧ 多様な研究機関等との連携の取組、産学連携や社会・地域との連携の取組

国や地域社会との連携(交流協定の締結、イベント共催、共同開発等)、産学連携(産学連携論文数、特許出願数、企業との共同研究数、企業からの相談件数、企業との研究者交流実績等)等の取組について記入してください。

⑨ 研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に関わる取組の実施状況

研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に対して関わった取組について記入してください。

④~⑨については、平成〇年度をとおした取組状況を、簡潔かつ具体的に記入してください。また、⑦については、日本学術会議が策定するマスタープランの重点大型計画、科学技術・学術審議会のロードマップへの掲載等の取組があれば記入してください。

削除

移動

削除

整理

移動

- ③ 共同利用・共同研究機能に関する評価との趣旨を踏まえ、
「**1-7. 研究施設の情報発信・広報活動等**」の項目のうち、
「1. 研究者以外を対象としたシンポジウム等の実施状況」、
「2. 国際シンポジウム等への参加状況」、
については、共同利用・共同研究の活動状況として確認することとし、「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 6. 共同利用・共同研究に関するシンポジウム等（主に研究者対象）の実施状況」の欄に移すとともに、

「3. 定期刊行物やホームページ、SNS 等による一般社会に対する情報発信の取組」については、
「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 7. 共同利用・共同研究の募集、施設の募集、施設の利用要領等に関する情報発信）」の項目として整理する。

<修正 (案) >

(評価調書の記入欄の修正 (案))

1-7. 研究施設の情報発信・広報活動等

1. 研究者以外を対象としたシンポジウム等の実施状況

年度	シンポジウム・講演会		セミナー・公開講座		その他		合計	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
○							0	0
○							0	0
平均							0.0	0.0

○主なシンポジウム、公開講演会、施設の一般公開等の開催状況

開催期間	形態(区分)	対象	公開講座等名称	概要	参加人数

2. 国際シンポジウム等への参加状況

区分	平成○年度	平成○年度	平均
参加件数			

[単位: 件]

参加した主な国際シンポジウム等		
開催時期	国際シンポジウム等名称	参加人数
1		
2		
3		
4		
5		

[単位: 人]

3. 定期刊行物やホームページ、SNS等による一般社会に対する情報発信の取組

情報発信の手段・手法	概要およびわかりやすい情報発信のための工夫

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

6. 共同利用・共同研究に関するシンポジウム等(主に研究者対象)の実施状況

①研究者を対象としたシンポジウム等の実施状況

年度	シンポジウム・講演会		セミナー・公開講座		その他		合計	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
○							0	0
							(0)	(0)
○							0	0
							(0)	(0)
平均							0.0	0.0
							(0.0)	(0.0)

○参加人数の算定方法

主なシンポジウム、研究会等の開催状況

開催期間	形態(区分)	対象	研究会等名称	概要	参加人数

※件数の下段には、国際シンポジウム等の回数(内数)を記入してください。

※参加人数の下段には外国人海外研究者の参加人数(内数)を記入してください。

②研究者以外を対象としたシンポジウム等の実施状況

年度	シンポジウム・講演会		セミナー・公開講座		その他		合計	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
○							0	0
○							0	0
平均							0.0	0.0

○主なシンポジウム、公開講演会、施設の一般公開等の開催状況

開催期間	形態(区分)	対象	公開講座等名称	概要	参加人数

③国際シンポジウム等への参加状況

区分	平成○年度	平成○年度	平均
参加件数			

[単位: 件]

参加した主な国際シンポジウム等		
開催時期	国際シンポジウム等名称	参加人数
1		
2		
3		
4		
5		

[単位: 人]

7. 共同利用・共同研究の募集、施設の募集、施設の利用要領等に関する情報発信

項目名を修正

移動

整理

<修正（案）>

（評価調書の記入要領の修正（案））

1-7. 研究施設の情報発信・広報活動等

1. 研究者以外を対象としたシンポジウム等の実施状況

主として一般市民、地域、学生を参加者の主たる対象として実施したシンポジウムや公開講演会等の実施件数及び参加人数を記入してください。

「主なシンポジウム、公開講演会、施設の一般公開等の開催状況」については、上記のうち代表的なものについて、イベント毎に開催期間、形態（区分）、対象、公開講座等名称、概要、参加人数を記入してください。

※ 数が膨大になる場合は、平成〇年度をとおした主なもの 10 件に限定して記入してください。

※ 「形態（区分）」については、公開講座、シンポジウム等の別を記入してください。

※ 「対象」欄について、学生向けの講演会等の場合は「学生」、地域住民向けのセミナー等は「地域」、広く一般の方向けの場合は「一般」と記入してください。（対象が重複する場合は、全て記入してください。）

2. 国際シンポジウム等への参加状況

当該研究施設等の専任教員以外の者が主催する国際シンポジウム、セミナー、フォーラムへの参加件数を記入してください。そのうち、平成〇年度をとおした代表的な国際シンポジウム等の名称・開催時期等を 5 件まで記入してください。ただし、招待を受けて講演や議長を行った場合に限りです。

3. 定期刊行物やホームページ、SNS 等による一般社会に対する情報発信の取組

平成〇年度をとおして、当該研究施設等における定期刊行物の刊行やホームページ、SNS への掲載等による情報発信の取組について記入してください。なお、概要には分かりやすい情報発信のための工夫やその成果・効果についても記入してください。

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

6. 共同利用・共同研究に関するシンポジウム等（主に研究者対象）の実施状況

①研究者を対象としたシンポジウム等の実施状況

主に研究者を対象とした、共同利用・共同研究の活性化を図る目的で実施した研究会等の実施件数及び参加人数を記入してください。

「主なシンポジウム、研究会等の開催状況」については、上記のうち代表的なものについて、シンポジウム等毎に開催期間、形態（区分）、対象、研究会等名称、概要、参加人数を記入してください。

※ 数が膨大になる場合は、平成〇年度をとおした主なもの 10 件に限定して記入してください。

※ 「形態（区分）」については、シンポジウム、講演会、ワークショップ等の別を記入してください。

※ 「対象」については、国内研究者向けの場合は「国内」、国際的な研究会等の場合は「国際」と記入してください。

※ 「外国人」については、海外機関に所属する方を記入してください。

②研究者以外を対象としたシンポジウム等の実施状況

主として一般市民、地域、学生を参加者の主たる対象として実施したシンポジウムや公開講演会等の実施件数及び参加人数を記入してください。

「主なシンポジウム、公開講演会、施設の一般公開等の開催状況」については、上記のうち代表的なものについて、イベント毎に開催期間、形態（区分）、対象、公開講座等名称、概要、参加人数を記入してください。

※ 数が膨大になる場合は、平成〇年度をとおした主なもの 10 件に限定して記入してください。

※ 「形態（区分）」については、公開講座、シンポジウム等の別を記入してください。

※ 「対象」欄について、学生向けの講演会等の場合は「学生」、地域住民向けのセミナー等は「地域」、広く一般の方向けの場合は「一般」と記入してください。（対象が重複する場合は、全て記入してください。）

③国際シンポジウム等への参加状況

当該共同利用・共同研究拠点等の専任教員以外の者が主催する国際シンポジウム、セミナー、フォーラムへの参加件数を記入してください。そのうち、平成〇年度をとおした代表的な国際シンポジウム等の名称・開催時期等を 5 件まで記入してください。ただし、招待を受けて講演や議長を行った場合に限りです。

7. 共同利用・共同研究の募集、施設の募集、施設の利用要領等に関する情報発信

平成〇年度をとおして、共同利用・共同研究の募集や施設の利用方法等に関する情報発信の状況について、概要を記入してください。

項目名
を修正

移動

整理

- ④ 負担軽減の観点から、研究施設の状況を確認する項目を見直すこととし、「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 3. 共同利用・共同研究の活動状況」の「④独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動」の項目と、

「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数」の「上記以外に、独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイントがあれば記載してください。」の項目とを合わせて項目を整理するとともに、

「基本的な方向性」において評価を行うものと整理された「拠点としての活動状況」の記載を踏まえ、「異分野融合・新分野創出の成果」も含めて記載することができる項目として整理する。

<修正 (案) >

(評価調書の記入欄の修正 (案))

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

④独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

--

⑤国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

--

⑥共同利用・共同研究を通じた**特色ある人材育成の取組**人材育成機能の強化

--

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書数の合計	平成○年度	平成○年度	平均	研究書の名称	発行年月	出版社名

○分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

--

○上記以外に、独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイントがあれば記載してください。

--

整理

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書数の合計	平成○年度	平成○年度	平均	研究書の名称	発行年月	出版社名

○分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

--

○上記以外に、**独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイントがあれば記載してください。**
特色ある共同研究活動成果の実績(異分野融合・新分野創出の成果等を含む)についてアピールポイントがあれば記載してください。

--

<修正（案）>

（評価調書の記入要領の修正（案））

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

④ 独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

⑤ 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

⑥ 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組人材育成機能強化の取組若手研究者（海外研究者を含む。）の採用や育成、女性研究者を含めた人材の多様化、先端的・国際的な共同研究等への大学院生の参画を通じた人材育成等の取組状況について記入してください。

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○ 共同利用・共同研究による成果として発行した研究書（平成○年度）
人文社会系において、論文以外で共同利用・共同研究による成果を示せる研究書がある場合は、平成○年度に発行した研究書数の合計を記入し、その中で 5 件まで厳選して研究書の名称、発行年月及び出版社名について記入してください。

○ 分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

○ 上記以外に、独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイントがあれば記載してください。

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○ 共同利用・共同研究による成果として発行した研究書（平成○年度）
人文社会系において、論文以外で共同利用・共同研究による成果を示せる研究書がある場合は、平成○年度に発行した研究書数の合計を記入し、その中で 5 件まで厳選して研究書の名称、発行年月及び出版社名について記入してください。

○ 分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

○ 上記以外に、独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイント特色ある共同研究活動成果の実績（異分野融合・新分野創出の成果等を含む）についてアピールポイントがあれば記載してください。

整理

⑤ 負担軽減の観点から、研究施設の状況を確認する項目を見直すこととし、「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 3. 共同利用・共同研究の活動状況」の「⑤国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況」の項目と、

「**2-2. 共同利用・共同研究の実施状況** 4. 共同利用・共同研究に係る支援状況」「③参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況」の、

「②共同利用・共同研究に参加する研究者への支援の状況」、

「③参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況」、

「④参加する研究者の支援のための特色ある取組」の項目とを合わせて項目を整理するとともに、

論点メモの記載を踏まえ、研究者が共同利用・共同研究に参加する際の支援基準も含めて記載することができる項目として整理する。

<「論点メモ」における記載>

- ・ 拠点外の研究者が共同研究に参加する際の、拠点の支援基準についての記載を求めたい。例えば、総額の上限、旅費・宿泊費の積算根拠をどのように設定しているのかといったことは重要な情報ではないか。

<修正 (案) >

(評価調書の記入欄の修正 (案))

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

④独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

⑤国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

⑥共同利用・共同研究を通じた**特色ある人材育成の取組**人材育成機能の強化

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

4. 共同利用・共同研究に係る支援状況

①共同利用・共同研究に参加する研究者への支援者数

	平成〇年度		平成〇年度		平均		備考
	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	
教員数							
技術職員数							
事務職員数							

②共同利用・共同研究に参加する研究者への支援の状況

(東日本大震災や熊本地震で被災した研究者に対する支援を含む)

③参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況

④参加する研究者の支援のための特色ある取組

⑤拠点活動に対する全学的な支援の状況(人員、予算を含む)

整理

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

4. 共同利用・共同研究に係る支援状況

①共同利用・共同研究に参加する研究者への支援者数

	平成〇年度		平成〇年度		平均		備考
	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	
教員数							
技術職員数							
事務職員数							

④②参加する研究者の支援のための特色ある取組(参加を促進するための取組、参加する研究者への支援の状況、参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況等)

⑤③拠点活動に対する全学的な支援の状況(人員、予算を含む)

<修正（案）>

（評価調書の記入要領の修正（案））

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

④ 独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

⑤ 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

⑥ 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組
若手研究者（海外研究者を含む。）の採用や育成、女性研究者を含めた人材の多様化、先端的・国際的な共同研究等への大学院生の参画を通じた人材育成等の取組状況について記入してください。

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

4. 共同利用・共同研究に係る支援状況

① 共同利用・共同研究に参加する研究者への支援者数

各区分の専任及び兼任の職員数について記入してください。なお、非常勤職員は兼任の欄に記入してください。

② 共同利用・共同研究に参加する研究者への支援の状況

平成〇年度をとおして、拠点の共同利用・共同研究に参加する研究者への支援の状況を簡潔かつ具体的に記入してください。なお、東日本大震災や熊本地震で被災した研究者に対する支援（研究者の受入等）を実施した場合は、その概要も記入してください。

③ 参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況

共同研究者の研究スペースの確保や宿泊施設の確保等、共同利用・共同研究に参加する研究者の利便性の向上等を目的とした取組を簡潔かつ具体的に記入してください。

④ 参加する研究者の支援のための特色ある取組

拠点の共同利用・共同研究に参加する研究者の支援のための特色ある取組を簡潔かつ具体的に記入してください。

⑤ 拠点活動に対する全学的な支援の状況（人員、予算を含む）

平成〇年度をとおして、拠点活動に対する全学的な支援の状況（人員、予算を含む）を簡潔かつ具体的に記入してください。

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

4. 共同利用・共同研究に係る支援状況

① 共同利用・共同研究に参加する研究者への支援者数

各区分の専任及び兼任の職員数について記入してください。なお、非常勤職員は兼任の欄に記入してください。

~~② 共同利用・共同研究に参加する研究者への支援の状況~~

~~平成〇年度をとおして、拠点の共同利用・共同研究に参加する研究者への支援の状況を簡潔かつ具体的に記入してください。なお、東日本大震災や熊本地震で被災した研究者に対する支援（研究者の受入等）を実施した場合は、その概要も記入してください。~~

~~③ 参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況~~

~~共同研究者の研究スペースの確保や宿泊施設の確保等、共同利用・共同研究に参加する研究者の利便性の向上等を目的とした取組を簡潔かつ具体的に記入してください。~~

④② 参加する研究者の支援のための特色ある取組（（参加を促進するための取組、参加する研究者への支援の状況、参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況等））

拠点の共同利用・共同研究に参加する研究者の支援のための特色ある取組、参加を促進するための取組、参加する研究者への支援状況、参加する研究者の利便性向上等の環境整備の状況等を簡潔かつ具体的に記入してください。なお、研究者が共同利用・共同研究に参加する際の具体的な支援基準（旅費・宿泊費等）が定められている場合は併せて記入してください。

⑤③ 拠点活動に対する全学的な支援の状況（人員、予算を含む）

平成〇年度をとおして、拠点活動に対する全学的な支援の状況（人員、予算を含む）を簡潔かつ具体的に記入してください。

整理

(2) 人文社会科学系の評価

<「本作業部会におけるこれまでの意見(期末評価等に向けて)」の記載>
・人文系の拠点の成果を評価する指標について、質や社会への影響がわかるような指標等を拠点側から提案していただきたい。

※国立大学附置研究所・センター会議第3部会からの意見聴取等を踏まえて改めて議論。